



ニュースレター

SDM NEWS



「Location Business Japan 2013 (LBJ2013)」村井教授・柴崎教授・神武准教授による基調講演

2013年

7

月号

行事予定

2013年7月31日(水) 13:00-17:00

慶應SDM×iDコンサルティング『社員がいいき
と成果を出す企業・組織デザイン』セミナー

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/07/31-131041.html>

要事前登録 無料

2013年8月3日(土) 13:30-18:00

研究科説明会 @日吉キャンパス協生館

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/08/03-080000.html>

要事前登録 無料

2013年8月4日(日) 13:00-16:00

慶應義塾大学大学院システムデザイン・
マネジメント研究科 特別講座
白熱対談「公共哲学×システムデザイン・
マネジメント 東西世界観の統合」

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/08/04-130000.html>

要事前登録 無料

2013年8月25日(日) 10:00-17:00

第2回 OpenKIDS「写真を用いたフィールドワークとストーリー
テリングー感覚を研ぎすませて軸を作るワークショップ」

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/08/25-100000.html>

要事前登録 無料

2013年9月8日(日)～9月11日(水)

Asia-Pacific Council on Systems
Engineering Conference (APCOSEC 2013)
@日吉キャンパス協生館

<http://www.apcosec2013.org/>

要事前登録 有料

2013年10月26日(土)

SDM研究科5周年イベント(特別講演会ほか)

@日吉キャンパス協生館

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/10/26-122508.html>

要事前登録 無料

2013年11月5日(火)～11月7日(木)

11月25日(月)～11月27日(水)

第5回 プロジェクト・マネジャー能力強化研修

@日吉キャンパス協生館

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/11/05-132046.html>

要事前登録 有料

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。

http://www.keio.ac.jp/ia/event/201307/201307_index.html

通算56号 2013年7月発行

SDM
System Design and Management

専任教員からのメッセージ

新しい構想の大学院によろそ



慶應義塾大学大学院SDM研究科でインテリジェンス・システム論を担当している手嶋龍一です。私はNHKワシントン支局長を務めていた時から、ミッドターム・キャリアの大切さを熱心に説いてきました。ジャーナリスト、商社マン、官僚の「ヤキハタ農業」という言葉があります。組織はいきいきのを幸いに彼らを使いこなし、その果てにくたびれてくると、新しく若者を雇い入れて使い潰す、という意味です。会社の側はいいのかもしれませんが、若者の側はたまったものではありません。かけがえのない人生です。時には立ちどまって、知的な養分を補給し、新たな方角に舵を切ることも必要です。海外ではごく普通のことなのですが、終身雇用制の軛から逃れられないニッポンでは、人生の半ばで知的な小休止をとることはいまだに稀です。SDMは、あなたのチャレンジを支える大学院です。社会のありようを変革したいという志を共にする若い方々を迎えて日々新たな挑戦に挑んでいます。

SDM研究科教授 手嶋龍一

最近のニュース

TOPIC

1

慶應SDM特別講演会 生活の木の「これまで」と「これから」

SDM研究科では2013年6月19日(水)に公開講演会『生活の木の「これまで」と「これから」』を行った。今回は株式会社生活の木代表取締役重永忠氏をお招きして、多くのメディアでも取り上げられている同社の持続可能な経営についてお話を伺った。CSRやCSVという企業が社会に果たすべき責任についての議論が盛んであるが、それを長きに渡り実践している同社の経験を伺うことが出来た。特に経営理念を軸にマネジメントを行っている実際の取り組みについての説明は非常に明快であり、参加者の興味を引いていた。理念からビジョン、日々の取り組みまでの一貫したマネジメントで注目されている経営者の話ということで、終了時刻を過ぎても質疑応答が終わらない盛況ぶりであった。講演後に場所を移した懇親会会場でも質問は途絶えず、参加者からは「生活の木の経営哲学を生で聞けるチャンスは貴重なので、本当に良い機会となった」という感想を頂いた。

インテリジェンスで読み解く北東アジア情勢 —北朝鮮包囲網と米・中・日・ロ・韓の動向—



熱心に聴き入る満員の聴衆(2013年6月6日(木) 三田キャンパス北館ホール)



佐藤優氏

伝説のラスプーチンこと佐藤優さん(作家・外務省元主任分析官)を迎えて、じかに様々な質問を投げかけてみたい。インテリジェンス・システム論の受講者から、こんな要望が寄せられ、三田キャンパスでの公開講座「インテリジェンスで読み解く北東アジア情勢」が実現した。受講生はもとより、卒業生、一般の社会人も加わって満員の盛況であった。

雑多なインフォメーションの海から、ダイヤモンドのように光り輝く宝石、つまりインテリジェンスを選び抜いて、現下の北朝鮮情勢や

米中関係を読み解く業を存分に披露してくれた。北朝鮮当局が公表している写真は誰もがみられるインフォメーションだが、具眼の士が分析すれば、見事なインテリジェンスに変貌し、国家の政治指導者が重大な決断をくだす拠り所になるのである。

こうしたインテリジェンス感覚に磨きをかけるためには、言語のセンスを育み、哲学を身につけ、数学を学ぶことが必要だという佐藤さんの指摘に会場から共感の声があがっていた。

日経BP社「日経ものづくり」連載完了

日経BP社「日経ものづくり」誌の2013年2月号から6月号の計5回に渡り、イノベティブ思考法についての連載を行った。SDM研究科のコア科目であるデザインプロジェクトのエッセンスをもとに、実際の企業で行った活動について、システム×デザイン思考というSDMならではの方法論と実務からの知見をご紹介した。

思考のプロセスや手法の使い方を一般の方に分かりやすく伝えることで、高度な内容でありながら実務でも使えるデザインプロジェクトの真価を感じて頂いた。また、実際の企業で行った生の事例を掲載することは貴重であるため、読者の反応も上々であるとの報告を受けた。また、反響の大きさから連載終了後に日経BP

社主催のワークショップも開催された。連載の内容にプラスして、緻密に設計した手法のコンビネーションによる思考プロセスに、参加者からはこれまで経験したことのない考え方であり是非自社にも取り入れたい、との感想が多く寄せられた。

白熱対談「公共哲学×SDM」を開催

慶應義塾大学大学院SDM研究科附属SDM研究所ソーシャルデザインセンターと千葉大学公共哲学センターの共催により、協生館3階CDFルームにて、公開講座 白熱対談「公共哲学×システムデザイン・マネジメント 新しい世界の作り方・見え方」を開催した。日時は2013年6月9日(日) 13:00 ~ 15:30。参加者は100名近く、CDFルームが超満員となった。対談を行ったのは、マイケル・サンデル「白熱教室」の解説でおなじみの千葉大学大学院人文社会科学部 小林正弥教授と、SDM研究科委員長の前野隆司教授。技術システムから社会システムまで、あらゆるシステムの問題を俯瞰的視点と詳細の視点から解決してきたSDM学と、そのような俯瞰的問題を考えるための基盤を提供してきた公共哲学。対談は、哲学的定義から幸福学に及び、あつという間の熱気あふれる対談となった。今回



シリーズ化決定! 白熱対談

は総論の議論であったが、今後も、東洋と西洋、ポジティブ幸福学、システム平和学などに

的を絞って対談をシリーズ化したいという意見も出るなど、まさに白熱した対談となった。

TOPIC 5 修士2年 保谷君が「放送文化基金賞 表彰」「日本民間放送連盟賞」「日本映画テレビ技術協会 技術開発賞」を受賞

慶應SDM修士課程学生保谷和宏君が、所属企業において開発に従事した簡易映像暗号装置「SDカードスクランブラー」の事績に対して、放送文化基金をはじめ、日本民間放送連盟、日本映画テレビ技術協会より技術開発賞が授与された。「SDカードスクランブラー」は、近年性能が向上し、ニュース取材の現場で使

用されることが増えた家庭用ビデオカメラの記録メディアを暗号化し、第三者に取得された場合の情報流出リスクを低減させるための装置。この装置の開発では、システムエンジニアリングの手法を応用し、機能設計から運用フロー構築まで、過不足なくかつ取材現場の負担を最低限に抑える工夫を随所に凝らして

いる。また、記録メディアを暗号化する発想はこれまでになく、その発想を製品化された点も合わせて、評価のポイントとなった。保谷君は「目的や範囲を明確にすることで、機能を含め運用を最適化することができた。システム思考の利点が生かされた」と述べた。

TOPIC 6 Location Business Japan 2013 (LBJ2013) 開催

ヒトやモノの位置情報を活用したサービスやビジネスなどを扱うカンファレンスLBJ2013が2013年6月12日(水)から14日(金)まで幕張メッセで開催され、春山真一郎教授、神武直彦准教授が実行委員として、また、この分野に関連するSDM研究科の学生が研究成果のデモンストレーションを行うため参加した。神武准教授は村井純環境情報学部長および柴崎亮介東京大学空間情報科学研究センター教授とともに基調講演へ登壇し、500名を超える来場者を迎え、「空間と情報の融合がもたらすインパクト〜ロケーションビジネスの今後を探る〜」と題したパネルディスカッションを行った。セミナーは、実用準天頂衛星、オープンデータ、位置情報を利用した街づくり、O2Oビジネス、個人情報など、位置情報に関する様々なテーマについて実施された。その中で、春山教授は屋内位置測位技術に関するセミナーのコーディネータを務め、各種屋内位置測位技術の現状や実現するサービスについて議論を行った。LBJ2013は、Interop Tokyo 2013 (実行委員長: 村井純環境情報学部長)、デジタルサイネージジャパン2013 (実行委員長: 中村伊知



春山教授の司会による屋内測位技術セミナー

哉メディアデザイン研究科教授)、スマートデバイスジャパン2013 (実行委員長: 藤原洋SDM研究科特別招聘教授、インターネット総合研究所代表取締役所長) と同時開催で行われ、の

べ13万人以上の来場者があった。

LBJ2013サイト:

▶ <http://www.f2ff.jp/lbj/2013/>

TOPIC 7 農都共生ラボ・アグリゼミ研究員が商業施設「ちゃばら」に出店



気仙沼波止場

2013年7月5日(金)、JR秋葉原駅前にオープンした商業施設「ちゃばら」内の「日本百貨店」

は、全国各地の優れた食品を販売し、生産者と消費者を直につなげる場として話題を集めてい

る。ここに、農都共生ラボ・アグリゼミ研究員でアーバンファームファクトリー(株)の松尾康弘さん(SDM1期生)が、復興支援のための「気仙沼波止場(けせんぬまわーふ)」、RIS Design and Management(株)の櫻井崇仁さんと井本慎也さん(共にSDM5期生)が、農家を応援する「りすの野菜」を出店した。

「気仙沼波止場」では、宮城県気仙沼産の海産物、「りすの野菜」では、千葉県柏市の野菜や加工品を販売し、各地域の一次産業を応援している。二店ともテレビ・新聞で紹介されるなど、注目度も高く、多くの人が購入に訪れている。今回の出店はまさに「農都共生」の実践であり、首都圏での物産販売による地域経済活性化への貢献が期待される。

詳しくは以下のホームページ参照

▶ <http://www.jrtk.jp/chabara/>

▶ <https://www.facebook.com/kesennumaWharf>

▶ <http://www.facebook.com/Risunoyasai?ref=ts&fref=ts>

ラボ・センター紹介

コミュニケーションデザインラボ

(Communication Design Laboratory)

担当教員: 当麻哲哉准教授

<http://kpri.keio.ac.jp/research/sub3.html>

研究室の概要

コミュニケーションデザインラボは、当麻哲哉准教授を中心とする研究室で、次世代のコミュニケーションをキーワードに、様々な研究に取り組んでいます。コミュニケーションとひとことで言っても、映像や通信技術を使った遠隔コミュニケーションの技術的研究があれば、それが社会にどのような価値を生み、産業の発展につながるのか、といった社会・経済・マーケティングの研究も行っています。文系、理系を問わず誰でも参加できる研究室です。

とくに理工学部や医学部とともに活動している大画面高精細映像と高速光通信を組み合わせた遠隔Face-to-Faceコミュニケーションシステムの開発は、当研究室の中核をなす研究課題です。この研究は、内閣府FIRSTプログラムの助成により行われており、当ラボの当麻准教授が副所長を務めるKPRI (慶應フットニクス・リサーチ・インスティテュート、所長: 理工学部小池康博教授) のサブテーマのひとつです。

KPRIサブテーマ3: <http://kpri.keio.ac.jp/research/sub3.html>

主な研究領域

- 高精細映像伝送による遠隔医療や遠隔教育の研究
- 映像遅延による作業性への影響に関する研究
- 臨場感の客観的評価手法の研究
- 異文化コミュニケーションに関する研究
- コミュニケーションを活用した地域活性化の研究
- 消費者行動モデルのデザインに関する研究

起業家を輩出してきた研究室の環境

当研究室のもうひとつの特徴は、これまでに多くの学生や修了生が起業している点です。自由にやりたいことをのびのびと行う環境の中で、ビジョンを持って意欲的に活動する精神、失敗を恐れず挑戦する精神を育てています。



NHKメディアテクノロジーの協力で4K3D映像の撮影(2011年)



医学部での大画面高精細3D映像の評価実験(2012年)



研究室一同集合写真(2013年)

比較政治制度システム論ラボ

(Comparative Political Systems Laboratory)

担当教員: ヒジノ ケン・ビクター・レオナード准教授

現在日本と世界が直面するあらゆる大規模社会システムの問題の根本には、利害関係者間の対立により合意形成が困難である事態が存在する。地域活性化、エネルギー問題、震災復興、教育改革、社会保障、安全保障、地球温暖化対策等、SDMの教員や学生が挑むテーマにも、技術的または本質的な改善策が存在するにも関わらず、意思決定プロセスにおける構造上の制約により改善が妨げられるケースが多くみられる。本ラボでは、社会システムにおける各ステークホルダー間の利害関係とそれぞれの要求を踏まえて合意を形成していく過程—いわゆる政治—を中心的テーマに据えている。

本ラボの中核テーマは政治制度であるが、その中でも、地方自治、地方—中央関係、地域活性化、道州制における政治過程等に焦点を当てている。ラボは2011年4月に発足し、現在9名のゼミ生、5名の外部研究員が参加している。学生の研究テーマは、高等学校における市民・政治教育、景観保全における地元企業の役割、住民の政治参画、地方議会基本条例、広域連携などさまざまだ。

ラボでは、学期はじめに社会科学の方法論と比較研究の基礎知識に関する講義を行い、また、参加学生が関心を持つテーマに沿った良書(これまでは『失敗の本質』や『地域再生の罠』など)を題材に議論を行いながら、各学生の研究の指導を進めている。

比較政治制度システム論ラボ

Comparative Political Systems Laboratory

システムとしての政治・イーストンモデル



政治プロセスを形作る制度群



「良い政治」を誘因するシステム

政治制度の質・政策の良し悪し、政治制度のありよう、「良い政治」はどのようなシステムで実現されるのか? 政治制度の質・政策の良し悪し、政治制度のありよう、「良い政治」はどのようなシステムで実現されるのか?



政治制度の複合的相互作用と結果

個別の政治制度(サブシステム)をいかにしてはじめての「アップ」を実現しない、それこそシステムの真の課題となる。政治制度の相互作用と複合的結果を明らかにし、いかにして「良い政治」の工程が可能となるか。



政治制度の比較検証からリ・デザインへ

日本の政治制度や社会問題全般を改善したいとき、その問題の根本を明らかにし、その問題を解決するための「リ・デザイン」を行う。そのためには、政治制度の比較検証から、その問題の根本を明らかにし、その問題を解決するための「リ・デザイン」を行う。

ヒジノ研究室での研究: 政治制度を中心に幅広い社会事象・「問題」を比較事例調査、サーベイデータ、その他の質的・量的データを基に要因分析を進めている。その確かな実証をもとに、実現可能な社会問題を改善する制度・政策提議を行う。

ご連絡先: 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科
ヒジノ・ケン L: hijino@sdm.keio.ac.jp



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

SDM
System Design and Management